

平
辞

昭和實業工務組會

弔 辞

故佐竹会長の即霊に對し、
心から哀悼の意を表し一言
惜別の辞をのびさせて戴きます。
時あとも天高く菊花曇る
十月二十日 会長 急逝の
訃報に接し、組合員一同
驚きと失望にうちひかれ
ました。

思い起せば故佐竹会長が
社長として就任されるからは
特にスポーツを奨励し、明細
な取揚規律を基に、労働組
合の立場を好く理解し、
進んで従業員の先頭に立
つて、ほげしい企業競争の

中で誠実に努力された
ことがあった。

私達一万組合員は会社の
従業員と云う、いわば人情
の連がりではある文に、当り
一面では組合員という立場で
利害対立という関係を
生じる場面はしばしばあるが、
常に新しい時代に於ける能力
便慣行の樹立のためには、
進歩的な対応で望まれた
市人柄やその態度が、睫に
浮ぶ立場の違う人とは言え
ぬ。光明度を異にして、今更
に下ら懐かしく、親近感
を禁じ得よと。

技術革新のテンポが早い、合

の業界に承りて昭和電工の
躍進行大の時期に、最高
責任者としての道格者と
決ったことは残念あり惜しみて
此余りあるものがあります。

最後に組合員同を代表して
心から御冥福と御祈りとし
借別の董辭と致します。

昭和三十四年十月二十九日

昭和電工労働組合

委員長 蒲谷隆次